



品種
・中華唐菊
・さくまる など

シュンギク

栽培のポイント

① 種まきは多めに

種子は一般に発芽率が低いので、多めにまくと安心です。まき溝を入念に作り、覆土や種まき後の鎮圧を丁寧にしましょう。苗を育てて植え付けても良いでしょう。

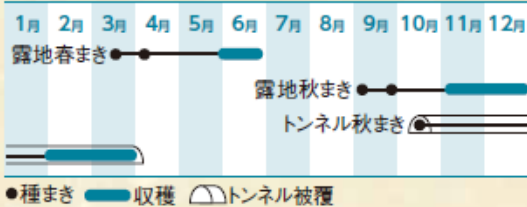
② 乾燥に気をつけよう!

乾燥に弱いので、保水性のある土壌で育てましょう。元肥には良質の堆肥を十分に施しておき、根張りを良くするのがコツです。

③ しっかりした管理で適期に収穫を

高温や長日条件でとう立ち、開花するので、5～8月の栽培は難しくなります。適切な肥培管理で生育を促進し、とう立ち前に収穫することが大切です。冬季はビニールや不織布などのトンネル栽培で防寒しましょう。

栽培カレンダー



1 元肥入れ

・溝まきの場合
(溝の長さ1mあたり)
堆肥:5～6握り
油粕:大さじ3杯
化成肥料:大さじ2杯
土をかけて埋め戻す

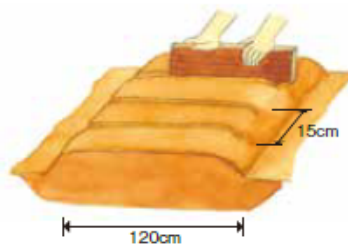
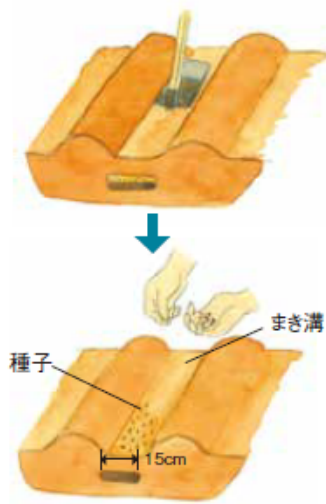
・ベッドまきの場合
(1㎡あたり)
堆肥:バケツ1/2杯
油粕:大さじ5杯
化成肥料:大さじ3杯
全面に肥料をばらまき、耕す

2 種まき

・溝まきの場合
鍬で畝を往復させながら、溝の底面をきれいに平らにする

種をまいたら、手で土をもみ落とすようにしていねいに覆土し、鍬の背で軽く鎮圧する

・ベッドまきの場合
板切れなどで7～8mmの深さの溝をつけ、種をまく



3 間引き

第1回
本葉2枚のころ2～3cm間隔にする

第2回
本葉7～8枚のころ5～6cm間隔に摘み取りする場合は広めの10cmくらいにする

4 追肥

・溝まきの場合
溝の片側に施し、軽く土寄せをする

第1回
第1回間引き後
<畝の長さ1mあたり>
化成肥料:大さじ3杯

第2回
第2回間引き後、第1回の反対側に同量施す

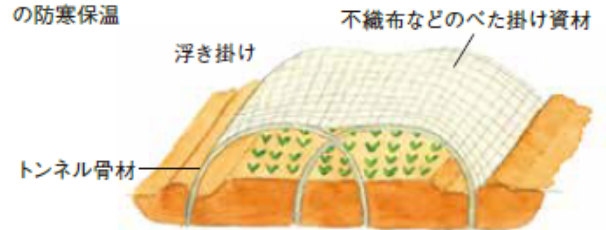
・ベッドまきの場合
条間に肥料をまき竹べらで混ぜる

第1回
第1回間引き後
<ベッド1㎡あたり>
化成肥料:大さじ5杯

第2回
第2回間引き後、第1回と同量を条間に施す

5 保温

秋まきの冬に入ってから
の防寒保温



6 収穫

・間引き収穫
本葉7～8枚、草丈15cmくらいになったら順次間引き収穫するとよいものが得られる

・摘み取り収穫
本葉10枚くらいになったら、下の方の葉3～4枚を残して中心の茎を摘み取る



わき芽が15cmくらいに伸びたら摘み取る